

伊勢佐木町・イセザキモールにおけるエスニックビジネスの流入への対応に関する研究 ～歴史的経緯と商店街組織と各店舗の認識に着目して～

都市空間生成研究室
1841132 原 明日香

エスニックビジネス 伊勢佐木町 商店街
コミュニティ イセザキモール 商店街組合

1. 研究の目的と背景

近年、少子高齢化が進む一方で、外国人人口は増え続けており、外国人が経営する商店や外国人事業者が年々増えている。しかし、外国人事業者の流入による同胞商業の集積は、ホスト社会向けの商店街としての弱まりや、街が目指すまちづくりの妨げになるという可能性もあると考えられる。対象地となる伊勢佐木町・イセザキモールが位置する中区は、横浜市内で最も外国人人口が多く、特に中国、韓国、台湾、タイなどのエスニック集団が多くみられ、平成 29 年に中区多文化共生推進アクションプランが策定されるなど、行政レベルで外国人の受け入れを行っている。これまでの研究では、エスニックビジネスがイセザキモールなどの中心商店街に進出する過程や要因などの事柄が明らかになっているが、外国人事業者流入においてホスト商店街としてイセザキモールは今後どのような政策を立てていくべきかについては明らかになっていない。

そこで、本研究はイセザキモールの歴史的経緯からイセザキモールの特性と商店街コミュニティに対しての認識を明らかにし、イセザキモールが目指すまちづくりの今後の政策について考えることを目的とする。

2. 研究の方法

本研究では「外国人事業者の流入による同胞商業の集積は、地域らしさの妨げになるのではないか」という仮説を明らかにし、イセザキモールの今後の政策を考えるために、以下の研究を行う。

- 1、イセザキモールの特性把握調査
- 2、イセザキモール商店街組合へのヒアリング調査
- 3、イセザキモール商店街既存店舗へのヒアリング調査

3. 伊勢佐木町、イセザキモールの概要

3-1. 伊勢佐木町の概要

伊勢佐木町は、神奈川県横浜市中区北部に位置する 1 丁目～7 丁目から成る地区であり、江戸時代、伊勢佐木町一帯は沼地であったが、新田開発よって埋め立てられ、明治 8 年に伊勢佐木町の名称が制定された後、昭和 3 年に 7 丁目体制に移行した。劇場や映画館、百貨店がオー

ブンし、伊勢佐木町は「娯楽の街」へと発展していったが、第二次世界大戦後、ビルのほとんどが米軍に接収され、伊勢佐木町の裏通りには飛行場が仮設された。接収地は、日本人の立ち入りを禁止され、接収施設では英語の看板やスイングジャズが街に流れるなど、伊勢佐木町にアメリカの文化や風俗が浸透していった。昭和 30 年に伊勢佐木町は全面的に接収が解除され、高度経済成長と共に商店街を有する街としての機能を再生させていった。



1. 横浜市伊勢佐木町イセザキモールの配置図^{注1)}

3-2. イセザキモールの概要

イセザキモールは、伊勢佐木町の 1 丁目～7 丁目を繋ぐ約 1.4 km の商店街のことを指す。「日本文化と伝統を受け継ぎながら新しい時代に進化し続ける街」と謳い、明治 7 年に誕生して以来人々が訪れ続ける歴史ある商店街である。また、日本初の歩行者天国を導入した商店街であり、1978 年に 1、2 丁目でショッピングモール街化して以来、7 丁目までのモール化を実現させた。かつては映画館や劇場が立ち並ぶ横浜の中心商店街として栄えたが、平成以降、中国や韓国などエスニック系の店舗が増加し、国際色豊かな商店街となっている。

3-3. まちづくり協定の概要と課題

イセザキモールの商店街組合は、伊勢佐木町 1・2 丁目地区まちづくり協定、伊勢佐木町 3～7 丁目地区まちづくり協定と二つに分かれており、1、2 丁目は昭和 57 年に施行された後、4 回の改定が行われ、3～7 丁目は平成 19 年に施行後、平成 29 年に改定が行われている。どちらの協定も、建物用途や街路デザイン、駐輪についてなど、ハード面においての規定が中心であり、イセザキモールはハード環境づくりに力を入れていることが分かるが、ソ

フト面に関する事項は少ない。また、協定の表現が曖昧であるため、商店街と店舗側での認識のズレが生じる恐れもある。異なる文化で生活してきたエスニック系店舗が増加している中で、イセザキモールは、商店街におけるソフト面の強化を重要視する必要があるのではないかと考えられる。

4. イセザキモールの地域組織の形成史の分析

4-1. 調査方法と結果

本節では、中区史を用いてイセザキモールの特性を整理し、エスニックビジネスの進出による商店街コミュニティの仕様の变化について考察する。資料によると、関東大震災により大きな被害が生じた伊勢佐木町 1、2 丁目地震復興記念事業や社会事業を行う「青年団」が昭和 2 年に結成した。昭和 21 年、米軍接收の状況下で「横浜伊勢佐木町新興会」が組織され、商店街が団結し接收解除のための陳情活動と共に、徐々に接收が解除されていく伊勢佐木町の整備や復興を行った。昭和 24 年、伊勢佐木町振興会が解散し、新たに「伊勢佐木町 1、2 丁目商和会」が結成され、伊勢佐木町に客足を戻すための取り組みを始めた。このように、街全体で団結し、危機的状況を乗り越えてきた歴史があるイセザキモールは「まちづくりに対する協働力が強い」という特性を持った街なのではないかと考えられる。

表 1. 伊勢佐木町の歴史と地域組織の形成

年号	伊勢佐木町の歴史	地域組織の形成
寛文7年(1667) -	吉田新田完成	
寛永6年(1853)	6月6日 ベリー来航	
明治2年(1869) ~	内海の埋め立て開始	行政と民間共同で埋め立てが行われた。
大正12年(1923)	9月1日 関東大震災	
大正14年(1925)	2月	「横浜市復興会」結成
昭和2年(1927)	1月15日	「青年団」結成
昭和3年(1928)	9月1日 町名改正により、7丁目体制へ	
昭和20年(1945)	5月29日 横浜大空襲	
	9月2日 米軍接收開始	
昭和21年(1946)	1月	「横浜伊勢佐木町新興会」
	3月16日	「伊勢佐木町1、2丁目振興会」結成
	9月14日	復興祭
昭和24年(1949)	3月15日	「伊勢佐木町1、2丁目商和会」結成
昭和26年(1951)	4月5日	「伊勢佐木町商業協同組合」結成
		(30年11月に協同組合伊勢佐木町商店街と改名)
昭和35年(1960)	8月1日	伊勢佐木町1、2丁目商和会から 「協同組合伊勢佐木町1・2丁目商和会」に改組
昭和36年(1961)	6月	歩行者天国の復活
昭和50年(1975)	9月27日~	伊勢佐木町生誕百年記念祭
	10月12日	
昭和52年(1977)	5月20日	「1、2丁目地区商店街振興組合」発足
	10月	マリナーズ地下街完成
昭和53年(1978)	11月11日	「街づくり委員会」が組織
		イセザキモール誕生 (1~2丁目)
昭和57年(1982)	11月	伊勢佐木町3~4丁目のモール化完成
平成14年(2002)		「1、2丁目地区商店街振興組合・街づくり委員会」が組織
平成16年(2004)	5月	「伊勢佐木地区の生活安全を守る会」設立

4-2. 考察

エスニック系店舗が増加している中で、今まで通りの商店街コミュニティにエスニック集団が参入することは、文化や習慣の違いから難しいのではないかと考える。このことから、イセザキモールはエスニック集団からの参入を待つのではなく、ホスト商店街として迎え入れることが必要なのではないか。

5. イセザキモールの商店街と既存店へのヒアリング調査

5-1. 調査方法と結果

伊勢佐木町の商店街コミュニティについての現状を明らかにするために商店街組合と既存店へヒアリング調査を行った。その結果、商店街側としては僱事や街のルールなど、まちづくりに参加してもらうためにもコミュニティの機会を増やしたいと考えているが、エスニック系店舗同士での独自のコミュニティができていることや文化の違いからうまく取り込めていないということが明らかになった。しかし、既存店としては、イセザキモールに出店した経緯も年数も異なるため、街への関わり方は人それぞれだと考えており、コミュニティへの関心には差があるということが明らかになった。

5-2. 考察

調査の結果から、店舗側がイセザキモールの目指すまちづくりについて十分に認知していないことが、商店街側と既存店でコミュニティに対する考えに差が生じた要因なのではないかと考えられる。そして、この要因はまちづくり協定において、ソフト面に関する事項が少なく表現が曖昧であることから生じたのではないかとすることも考えられる。

6. 結論

これらの調査、分析から、エスニック系店舗の増加による同胞商業の集積がホスト社会向けの弱まりや中心商店街の落ち込みを招くのではなく、商店街側のエスニックの受け入れ態勢が万全でないことによって招いてしまっているのではないかとということが明らかになった。イセザキモールは様々な時代の変化に対応しながら協働的なまちづくりを行ってきた。しかし、エスニック系店舗が流入してきた現在では、ホスト商店街として、エスニックビジネスへの対応が未だ不十分であり、商店街内でのコミュニティの希薄化、商店街としてのまちづくりへの関心度に差が生じたということが今回の調査から明らかになった。そこで、イセザキモールはホスト商店街として今後、街が目指すまちづくりにおいて、商業者の方針を設定するなど、街の価値をより高めるための検討を行っていくことが重要であり、継続的に強化していくことが求められる。

注

1) 横浜・伊勢佐木町商店街 公式ホームページ 2022.1.26

参考文献

- 1) 中区制 50 周年記念事業実行委員会：中区史，pp.374-471，1958.2
- 2) イセザキ歴史書をつくる会：OLD but NEW イセザキの未来につなぐ散歩道，pp.33-127，2009.7